

今月 1971-2 年ころのスライドを約 840 枚デジタル化してみました。

スライドは KodaChrome と Fujicolorr が主で一部 AgfaColor でした。

かなり退色していましたが、Fujiの方がひどく、退色補正しないと、茶色のモノクロのように見えます。KodaChrome と AgfaColorの方が、退色補正しなくてもカラー写真に見えるのが多くありました。この頃はまだ Fuji の技術は劣っていたのかもしれませんが。

半面、カビが生えて汚くなっている率は Kodak, Agfa, Fuji の順で多いようでしたが大差ないとも言えます。カビは膜面についているほか、若干スライドマウントの糊からでたように思われるものもあります。マウントの糊が完全にとれてしまっていたのは Fuji が圧倒的でした。これは必ずしも Fuji フィルムのせいではないでしょうけど、総合点としてやはり Fuji は負けていたという印象です。

EPSON Scan ソフトの特性なのか、退色補正するとヒストグラムの両端が少し狭くなってしまいうようです。その場合、手動でヒストグラムの両端を広げてやる操作が必要になります。

いずれにしろ、完全自動で思った色を再現するのは難しく、基本的には一枚一枚丁寧に補正してやるしかないみたいです。フラットヘッドスキャナーで 4 枚のスライドを 3200dpi でデジタル化するのに、プレビューを含めて約 5~8 分かかります。Kenko KFS-1650JS だと 1~2 分でしょうか。しかし、出来上がったものの満足度は前者の方が高いので、私の Kenko の出番は、スライドに関してはなくなったと思います。

スキャンした結果をみると解像度が十分出ていないのではないかと思います。これには原スライドのフィルムやマウントが変形していたり、フィルム自体の解像度が十分でない、などの原因が考えられますが、多くのスキャナーは焦点を調整する機能を持っていないのでスキャナーの焦点が合っていないということも疑えます。これを疑うともう 1 ランク上のスキャナーが欲しくなりますが、新しいフィルムならともかく、50 年も前のスライドとなると退色と汚れが激しいので、所詮原色でのデジタル化は期待できません。ただ思い出の整理にしかありませんので、今回のスライドに関しては現在の Epson GT-X750 位が適当なところかなと思います。

続いて 1991-1 年ころのスライドを 5 本やってみました。銘柄は不明(多分 Fuji)と Kodak Ektachrome、Fujichrome です。前のより 20 年も新しく手持ちの中では最新の slide ですが、やはり退色はしていました。新しいといっても 26 年前ですから、十分退色する時間はあったみたいです。茶色系が強くなり、青はとんでいるか紫ぽくなっていました。といっても 1971-2

年のよりはぐっと良好でした。たまにごみの付着もありましたがホコリ除去が効く範囲で、さすがに、カビ等の発生は殆どなく、退色補正でまあまあカラー写真らしくはなりました。

これまでのデジタル化の総評ですが、元のスライドの出来栄えにもよるのですが、デジタル化したものの出来栄えはインデックスづくりや小サイズのプリントには適していますが、**A4**以上にプリントして作品にしようと思うとちょっと難しいかなと思います。作品とするにはやはり手持ちのよりもう一段上のクラスのスキャナーを購入するしかない、という印象です。